

教室の窓から

令和 5年
(2023年) 5月
来須 真紀

やってきましたゴールデンウィーク明け

ドキドキワクワク?の出会いの4月。それが終わり、教員が2番目にドキドキするのが、実はゴールデンウィーク明け…。なぜなら連休明けのサザエさん症候群な教員と新学年新学級に慣れてきた子どもたちとのコラボ…。パワーアップした子どもたちと弱体化した教員となるからなのです。53号では、そんな子どもたちと先生に5月によく行われる検診について、お伝えしようと思います。

検診の嵐

学校では、年に一度学年の初めに内科検診、歯科検診、耳鼻科検診、身体測定、心電図検診、眼科検診、視力検査、尿検査などなど、たくさんの検診があります。身体測定以外は、学校医と呼ばれる学校の近所の病院で自治体から委託されているお医者さんが日替わりで学校にやってきて子どもたちの検診をします。これは、よくよく考えるとすごい対人サービスだと思います。病院へ行かず、無料で、お医者さんの検診が年1で受けることができる。手厚いサービスですよ。

検診あれこれお医者様

この、学校医になってくださっている先生は、年間1~2回学校で検診をしたり、学校保健委員会と言って子どもたちの心身の健康状態について協議する会で助言をしたり、就学時検診で次年度就学児に検診をしたり、学校内で集団感染などおこった場合の相談に乗ったり…。自治体からの謝金以上の重責を担っていただいています。しかも、学校内の検診は、ご自分の病院を空にしてくださる訳で…。本当に申し訳ないと思ってしまうのは、私だけでしょか…

検診あれこれ保健室の先生

そして、検診にて大活躍するのが、なんといっても保健室の先生養護教諭。検診の日程調整、お医者さんとの連絡調整、検診計画を立て、当日の役割分担を考える、当日使う器具の準備片付け、記録整理、検診結果の記録、保護者への通知、などなど…。しかも、養護教諭は基本的には1校につき1名多くて2名。一人でこんなたくさんの仕事を短期間に。けがをした子や体調が悪い子の来室の合間を縫って

やって下さっています。ありがたい、ありがたい。

検診あれこれ教頭先生

学校のなんでも相談役といえば教頭先生。実は検診でも教頭先生は大活躍。養護教諭のサポートをしながらお医者さんのお出迎え(駐車場の確保を含む)して校長室へご案内して、お茶を出すように頼んで、検診がスムーズに進んでいるか管理して…。実は、検診当日は通常業務に加えて検診日のミッションを遂行されているのです。

検診あれこれ担任の先生

担任の先生も検診の日バタバタします。いつもと日課が違うので子どもたちにその日課を理解させることや学習の段取りを日課に合わせることから始まります。「今日の検診の説明はどの時間でどういうふうにしよう?」「検診の順番待ちの時間は何をさせよう?検診が終わって教室に入った子どもには何をさせよう?」「受診の順番は誰からにしよう?」などなどやることはいっぱいです。中にはスケジュールが変わると嫌がる子どもや検診自体を嫌がる子どももいるので、スケジュール変更や検診についての説明には時間をかけます。

検診になると、クラスごとに順番で受診します。大抵前のクラスが終わりかけに誰かが「そろそろ検診にきてくださーい」と呼びに来てくれます。それまでの時間は、途中で途切れても差し支えのない学習に取り組んでいます。(漢字練習とか読書とかテストやプリントの直しとか)それでも「ちょっと待ってー。まだやめたくないー」なんて言う子どももいるのでそれをなだめながら整列させ、検診会場に連れていきます。

検診会場に着いたら、大抵前のクラスの検診が終わっていません。(途切れなく検診をすることで学校医さんの拘束時間をなるべく少なくするという工夫)ということで、ここでは教員の決まり文句「静かにしましょう」が連発されます。それに対して、非日常のテンションUPの子どもたちはじゃべりたくて仕方ない…。一昔前?にあった集団予防接種での「痛かった?痛かった?」のテンションに似たものを感じます。(そう考えるとほほえましいのですが)ただ、この子どもとの闘ぎあい、どうしてもこちらのお願いを聞いてもらう必要があるのです。それは、担任にとっても重責。「記録」があるからなのです。特に歯科検診は、歯の状態の記録を歯科衛生士さんばりに付けなければなりません(私の勤務した学校は大抵そうでした)しかもお医者さんは大抵マスクをしていらっしやる。そしてちんぷんかんぷんの専門用語。これらを聞き逃すまいと必死なのです。だから、本気で静かにしてほしいのです。(私個人的な見解かもしれませんが…。昔「記録が聞こえないからお願いだから静かにして」と子どもにお願いしていたところたまたまその場面を校長先生に目撃され、「そんな自

分本位の指導をしてはならない。そうではなくて自分自身のための検診だから真剣に静かに受けなさい」と指導しなさい。と言われたこともあります。)

検診あれこれ総括

と、実は、検診一つとってもバタバタな学校現場。現場の先生からは、「これは、本当に学校がやらないといけないことなのか。」「子どもの病院に連れていくのは保護者の責任で学校がすることではない。」などの声が聞こえてくることもあります。

また、保護者の立場からすると学校の検診で引っかかると病院の受診を求められるため、すでに治療中の疾患を指摘されて帰ってくると、学校の検診のために病院受診をしなければならないということも起こってきます。「あーめんどくさい。うちの子アレルギー性鼻炎なのは、10年前から知ってるのよ。知っていて経過を見ているのよ。いつ病院に連れて行こうかしら。」なんて声も聞きますし、反対に「え？うちの子の活舌が悪いのは舌の構造に問題がある可能性があるって？それは、分からなかった。早速病院を調べよう。」という、ありがたかった。という声も聴きます。

私個人的には、家庭によるかな？という気がします。前任校(短信にも書きますが転勤しました)のような外国籍のご家庭が多い学校には、子どもたちの健康に寄与するためには必要だと思いますし、こまめに病院の受診ができるご家庭には必要ないかもしれません。ちなみに我が家は…。毎年歯科検診にはドキドキです。(歯科は回数と時間がかかるんですよね…。しかも歯並びが悪いので、そこを指摘されると、矯正治療がいるのかな？とかいろいろ考えます。子ども目線でなくてすみません)

ただ、子ども目線でみるとこの検診。あまりいいものではないみたいです(笑)検診が好き。楽しい。という子どもはあまり聞いたことがありませんね。早期発見早期治療で不必要な苦痛をしなくて済むからがんばろうねということでしょうけど子どもたちにはなかなか…。

皆さんは、この学校での集団検診。どのように考えられますか？